



スポーツ科学部スポーツ科学科 2020年4月開設予定 詳細は次号にてお知らせいたします。

## 第33回 駿輝祭 10/26(土)・27(日)開催

### 駿輝祭実行委員にインタビュー

今年で33回目の開催となる駿輝祭は、運営はもちろん、会場設営、広報、会計管理など開催に至るまでの準備をすべて学生(駿輝祭実行委員会)が行っています。実行委員会の活動なくして駿輝祭は成り立たないのです。そこで来月開催される駿輝祭に先立って、駿輝祭を支える実行委員の代表として委員長、各部長に活動内容や、意気込み等をお聞きしました。



#### 委員長

メディア情報学部3年 田中 慶吾  
埼玉県立狭山清陵高校出身



私たちは日々駿輝祭に向け、様々な活動を行っています。今年度の駿輝祭のテーマは「百花斉放」です。百花斉放とは、色々な花が一緒に咲き開くという意味です。駿輝祭という多くの方が集まるイベントで、文学や芸術において、学生一人ひとりたくさんのチャレンジという花を咲き開いてほしいと思い、このテーマに決定いたしました。今年度は改元に伴い、令和初の駿輝祭です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

#### 総務部 部長

心理学部2年 坂巻 大地  
栃木県立上三川高校出身



総務部は駿輝祭が円滑に進むよう、食品の衛生管理や駐車場警備など皆さんの安全を第一に考え、様々なことに取り組んでいます。当日、私たちの努力が実を結び、「自分たちのやってきたことには大きな意味があった」と感じる、最高の駿輝祭となるよう、日々準備を進めています。

活動内容が分かりにくい部署かもしれませんが、駿輝祭を開催するのに「なくてはならない部署」なので、誇りと責任感を持ち、当日も頑張ります。

#### 渉外部 部長

心理学部2年 相場 隼也  
堀越高校出身



渉外部は主に外部の企業と関わる仕事をしています。一人ひとりが責任を持って活動をしています。駿輝祭では、スタンプラリーとフィールドゲームの景品渡しをしています。スタンプラリーを全て集めると素敵な商品が貰えます!是非、駿輝祭を楽しみながら、集めてみてください。何かお困りの際は、赤または黒のパーカーを着ている駿輝祭実行委員にお尋ねください!

#### 企画部・屋外 部長

メディア情報学部3年 櫻谷 雄太  
西武台高校出身



駿輝祭屋外特設ステージ。お笑い芸人さんによるライブ。ダンスや音楽系サークルによるパフォーマンス。フィールドゲームやバルーン遊具の設置。音響や照明器具の設置。駿輝祭のポスターやパンフレットの作成。Twitterの更新。すべて屋外が執り行っております。進化し続ける企画部・屋外担当。去年の冬から1年かけて作り上げた晴れ舞台。ご期待ください!

#### 企画部・屋内 部長

メディア情報学部3年 佐藤 尊亮  
新潟県立八海高校出身



皆さん、こんにちは!私たち企画部・屋内担当は学内体育館で行う各種イベントの準備・運営を主に担当しています。日々、楽しい仲間達と切磋琢磨し、素晴らしい作品を制作していますので、駿輝祭にご来場の際は、私たちが心を込めて制作した作品も是非ご覧になってください!

そして、今年度も前年度に引き続き、トークショーと駿大ダンスコンテストを行います。さらに、今年のトークショーにはこれまでとは一味違うテイストのゲスト様をお招きしていますので、最高のイベントになること間違いなしです!

是非、駿輝祭にお越しの際は、各種イベントに足をお運びくださいませ。お待ちしております。

#### 会計部 部長

法学部2年 紺野 萌花  
埼玉県立大宮武蔵野高校出身



会計部は前年度のデータや今年行う企画を参考に予算案を作成し、駿輝祭で使われるすべてのお金の把握や管理をして決算書類を作成します。他にも、備品の買い出しや、管理を行い、他部署に貸し出すのも会計部の仕事です。地味な仕事ですが、どれも責任重大であり、なくてはならないものばかりです。私自身、日々学ぶことが多いです。責任感を持ち、裏方から支えていきたいと思っています。頑張ります。

## 第33回 駿輝祭ポスター決定!!



第33回駿輝祭を開催するにあたり、駿輝祭実行委員会では、今年のテーマに沿った広報用ポスター・パンフレット表紙の原画を募集しました。その中で見事選出されたポスター作者のXIE XINさん(メディア情報学部2年)にインタビューをしました。

### 今年のテーマ「百花斉放」

「百花斉放」とは、いろいろな花が一緒に咲き開くという意味です。このテーマには、学生一人ひとり、たくさんのチャレンジという花を咲き開いてほしい、という駿輝祭実行委員の思いが込められています。



▲受賞作品

- Q 作品を応募しようと思ったきっかけはなんですか?
- A 自分の勉強しているPCのツールを使ってチャレンジしたいと思ったからです。
- Q デザインのこだわりや一番力を入れたポイントを教えてください
- A しゅんたの模様とグラデーションにこだわりました。
- Q ポスターが選出された率直な感想をお願いします
- A とにかく嬉しかったです。駿輝祭実行委員の方々に私のデザインしたポスターを採用してもらい、とても光栄に思います。
- Q ポスターの制作時間を教えてください
- A 約6時間です。
- Q 昨年のポスターのデザインをみてどう思いましたか?
- A 昨年のデザインは情報が見やすかったです。今年はシンプルなデザインを心掛けて作りました。



駿輝祭実行委員がインタビューしている様子

# 2019年度 「特待生」「学生表彰生（学部長賞）」が決まる

## 特待生

6月19日（水）に本学 AV ホールにて、2019年度1級・2級特待生認定式が開催され、7月24日（水）には学長室にてスポーツ年間特待生認定式が行われました。大森一宏学長から祝辞が述べられるとともに、以下の特待生に認定書が授与され、その荣誉が称えられました。1級・2級特待生は、学業成績及び人物が特に優れている学生、スポーツ年間特待

生は、前年度のスポーツ競技成績及び人物が特に優れている学生に対し奨学金を給付する制度です。

特待生に認定された皆さん、おめでとうございます。さらなる飛躍を期待しています。逃した学生は次年度受賞に向けて邁進してください。

学部	学年	氏名	種別	出身高校名	学年	氏名	種別	出身高校名
法学部	4年	猿井 智裕	1級	埼玉県立所沢西高校	3年	鈴木 将平	2級	矢板中央高校
	4年	土屋 梨紗	2級	東京都立大島高校	2年	君島 拓海	1級	聖望学園高校
	3年	井上 優大	スポーツ	大分県立玖珠美山高校	2年	徳武 三奈	2級	新潟県立長岡向陵高校
	3年	荻田 周音	1級	静岡県立裾野高校				
経済経営学部	4年	本間 滉平	1級	翔洋学園高校	2年	加藤 希美	2級	青森県立八戸東高校
	4年	山本 一夢	2級	秋田県立大館鳳鳴高校	2年	高橋 拓也	2級	長野県北部高校
	3年	香谷 一瀬	2級	埼玉県立川越高校	2年	楯岡 友広	1級	群馬県立高崎商業高校
	3年	森田 望夢	1級	高知県立高知南高校	2年	藤本 侃	2級	正智深谷高校
メディア情報学部	4年	大黒 圭祐	2級	新潟県立新潟南高校	3年	栗林 由依	2級	日々輝学園高校
	4年	西川 彩香	1級	新潟県立長岡商業高校	2年	伊澤 美紀	1級	栃木県立小山城南高校
	3年	川端 茉衣夏	1級	埼玉県立所沢西高校	2年	栗嶋 友華	2級	埼玉県立坂戸高校
現代文化学部	4年	熊谷 友花	2級	滋賀県立大津商業高校	3年	浪岡 葉奈	2級	青森県立三沢高校
	4年	山戸 明日香	1級	東京都立東村山西高校	3年	町田 未来	スポーツ	栃木県立今市高校
	4年	若林 康太	スポーツ	新潟産業大学附属高校	3年	吉田 佳純	スポーツ	岐阜県立岐阜商業高校
	3年	薄田 瑞希	1級	金蘭会高校	2年	小倉 碧	1級	埼玉県立大宮中央高校
	3年	宇都宮 菜	スポーツ	愛媛県立野村高校	2年	関川 湧也	1級	新潟産業大学附属高校
心理学部	4年	市原 香葉	1級	埼玉県立所沢高校	3年	橋本 佳奈	1級	尚志高校
	4年	倉本 大希	2級	筑波大学附属坂戸高校	2年	鈴木 彩紗	2級	青森県立八戸商業高校
	3年	石川 大輔	2級	沖縄県立前原高校	2年	鈴木 綾菜	1級	福島県立磐城高校

### 1級特待生受賞者コメント

メディア情報学部 4年 西川 彩香  
新潟県立長岡商業高校出身

この度、1級特待生に認定していただけてとても嬉しいです。積極的に授業に参加し、教職・資格取得やサークル活動などの様々な事柄に挑戦してきました。その結果、3年間連続で1級特待生に認定していただけたのだと思います。これを糧として一層勉学に励み、現在の夢である「教師」を目指していきたいです。



### スポーツ年間特待生受賞者コメント

現代文化学部 3年 町田 未来  
女子ホッケー部所属  
栃木県立今市高校出身

まさか自分が選ばれるとは思いませんでした。素直に嬉しいです。

スポーツ年間特待生として選ばれたからには、責任をしっかりと背負い、勉学にも部活動にもより一層励み、日々精進していきたいです。また、今後の駿河台大学の発展に少しでも貢献できるように頑張ります。



# 学生表彰生 (学部長賞)

学業において優秀な成績を挙げた学生、部活動やボランティア活動などの課外活動において顕著な活動を行った以下の学生が表彰されました。

学部	学年	氏名	出身高校名	学年	氏名	出身高校名
法学部	4年	坂井 敦哉	埼玉県立所沢中央高校	3年	清水 総一郎	埼玉県立熊谷西高校
	4年	須貝 義樹	山形県立南陽高校	3年	宮下 晴美	埼玉県立川口北高校
	4年	藤原 大樹	関西高校	3年	大森 裕介	埼玉県立狭山経済高校
	4年	吉田 稜	日々輝学園高校	2年	岩嶋 翼	関根学園高校
	4年	藤本 拓弥	東京都立昭和高校	2年	酒井 恵佑	新潟県立小千谷高校
	3年	上出 恭華	群馬県立渋川工業高校	2年	諸井 歩	埼玉県立入間向陽高校
経済経営学部	4年	秋田谷 竹智	埼玉県立鶴ヶ島清風高校	3年	鈴木 蒼太	東京都立杉並工業高校
	4年	安達 智樹	新潟県立柏崎総合高校	3年	瀧名 凱	本庄第一高校
	4年	内沼 葵	霞ヶ関高校	2年	片居 木大智	西武台高校
	4年	時森 有沙	埼玉県立入間向陽高校	2年	木村 祐哉	栃木県立足利高校
	3年	市川 倅多	埼玉県立豊岡高校	2年	田代 快	東京都立光丘高校
	3年	小宮 山武	石川高校	2年	山崎 陸生	静岡県立三島北高校
メディア情報学部	4年	武田 吉乃	新潟県立新発田南高校	3年	玉川 大海	東京農業大学第三高校
	4年	竹谷 比呂稀	長崎南山高校	3年	戸谷 夏実	群馬県立高崎北高校
	4年	山内 美空	沖縄県立知念高校	3年	石原 崇寛	駿台甲府高校
	3年	青木 榛花	埼玉県立所沢西高校	2年	北爪 好香	群馬県立伊勢崎高校
	3年	伊藤 実	東京都立富士森高校	2年	滝澤 奈桜	埼玉県立所沢西高校
	3年	亘 愛華	埼玉県立狭山緑陽高校	2年	宮崎 大空	高崎商科大学附属高校
現代文化学部	4年	伊谷 奈	静岡県立袋井高校	3年	右井 綾乃	茨城県立多賀高校
	4年	大戸 梓	船橋市立船橋高校	3年	伊藤 千華	北海道滝川西高校
	4年	熊谷 友花	滋賀県立大津商業高校	3年	佐藤 杜登	秋田市立秋田商業高校
	4年	小林 茜	群馬県立沼田女子高校	3年	嶋野 優奈	日本体育大学柏高校
	4年	小松 剛	埼玉県立羽生第一高校	2年	瀧澤 瑛司	埼玉県立浦和東高校
	4年	中澤 舞	新潟県立新潟商業高校	2年	松崎 涼	浦和学院高校
	4年	榛澤 聖子	千葉黎明高校	2年	村田 健太郎	山梨県立山梨高校
	4年	保戸塚 亮太	クラーク記念国際高校	2年	秋田 慶人	静岡県立静岡西高校
心理学部	4年	金 子 貴 勇	群馬県立尾瀬高校	3年	松本 捷	埼玉県立松山高校
	4年	川村 由佳	羽黒高校	3年	的場 佑斗	東京都立秋留台高校
	4年	佐藤 由莉枝	山形県立酒田東高校	3年	三田 麗奈	駿台甲府高校
	4年	平良 はるな	沖縄県立西原高校	2年	亀田 菜摘	下北沢成徳高校
	4年	寺田 桃子	群馬県立館林女子高校	2年	平山 莉奈	栃木県立さくら清修高校
	4年	長島 史歩	川崎市立川崎総合科学高校	2年	町田 理菜	叡明高校
	3年	永島 帆香	淑徳与野高校	2年	渡邊 さや	新潟県立長岡向陵高校

## 学生表彰生 (学部長賞) 受賞者コメント

心理学部 4年 川村 由佳 羽黒高校出身

この度は学部長賞に選出していただき、誠にありがとうございます。

私は佐藤由莉枝さん、寺田桃子さんと共に飯能プランニングコンテストに参加しました。実際に市内を見て回り、商店街の方々にお話を伺うなどして、現状を把握しながらプランを考えていき、最優秀賞をいただきました。

今回受賞できたのも、周りの方々の協力や支えがあったからだと思います。これからも感謝の心を忘れず、精進していきたいです。



左から、佐藤さん、川村さん、寺田さん

## 学内 1Day インターンシップを開催しました！

7月18日(木)、3年生を対象に、「学内1Day インターンシップ」を開催しました。今回のプログラムは3つ！  
学生はそのうちの1つを選んで参加します。夏のインターンシップ本番に向けて、多くの学生が参加し、基礎知識を身に付けました。

### 《プログラム》

#### 初級コース

身だしなみ・マナーの基本、グループワークのやり方・ポイント、発表方法などについて、実践的に学ぶ。本番へ向けて疑問点を確認する。

#### 営業コース

営業の種類や働き方、実は知らない営業の活躍できるフィールドなどについて理解を深める。「閉店寸前のカフェを立て直す」というテーマでグループワークを行い、営業のポイントを学ぶ。

#### ITコース

IT企業の仕組みや働き方、求められる人材、未経験からでも活躍できるフィールドなどについて理解を深め、グループワークを通じて自身の活躍の場を知る。

#### ビジネスマナーを学ぶ



#### 業界・職種について学ぶ



#### グループワークの様子



#### 参加者の声

インターンシップの流れやマナーを学び、自信になった。

楽しく、もう一度受けてみたいと思った。

営業職には色々な種類があることを知り、興味が湧いた。

これから積極的に様々な企業のインターンシップに参加したい。

今まで知らなかったIT業界についての理解が深まり、もっと自分でも調べてみようと思った。

グループワークを体験し、積極性が大事だと感じた。

## 卒業生との交流会を開催しました！

7月11日(木)、現在社会人として活躍する10名の卒業生を招き、「卒業生との交流会～社会で活躍する駿大OB・OGとの座談会&懇親会～」を開催しました。

現在の仕事のやりがいや苦労、在学中に力を入れたこと、就職活動のエピソードなど、色々とお話いただきました。参加した学生は真剣な眼差しで、積極的に質問をしていました。

中には、働くことのイメージがまだできない学生もいましたが、先輩が体験した話を直接聞くことで、就職活動や卒業後の活躍などのイメージがしやすくなり、自身のキャリアプランについて考える貴重な機会になりました。

また、卒業生にとっても、在學生との縦のつながりだけでなく、出身学部も就職先も異なる卒業生同士が集まったことで、横のつながりもできたようです。

今後もキャリアセンターでは、卒業生との様々な交流イベントを開催していきます。



視野を広げ、早めに活動しようと思った。

民間企業と公務員両方の話が聞けて良かった。

#### 参加者の声

色々な業界を知るきっかけになった。

## 就職活動豆知識コーナー “求人票” & “就職試験報告書”

駿河台大学の4年生に届いている多くの求人票の中から「これは！」という求人票を職員がピックアップし、赤ペンでコメントを記入してキャリアセンター内の掲示板に掲示しています。

4年生が立ち寄ってチェックしたり、就職アドバイザーと希望に合った求人と一緒に探したりするために活用されています。

日頃から、多くの求人票を見ている職員だからこそ、求人票から読み取れるポイントがあります。労働条件が良い、求める人材が駿大生に合っている、歴史があり安定している、仕事の内容が面白そう、など様々な視点で日々お宝求人を発掘しています。

求人情報はこの他に、「キャリアス UC」でも見るすることができます。

企業から内定をもらった学生、公務員試験に合格した学生は、自らの「就職試験報告書」をキャリアセンターに提出します。どのような試験・面接があったか、どのような対策をしたか、先輩へのメッセージなどを書いてくれています！

キャリアセンターでは、年度毎に、業種順に報告書をファイルし、学生がいつでも閲覧できるよう配架しています。駿河台大学就職支援システム「JobHunter+s」からも閲覧可能！

就職活動中の学生は、先輩たちの報告書を参考に、筆記試験・面接に臨んでいます。



JobHunter+s、  
キャリアス UC は  
こちらから

メディア  
センターより

from the Media Center

### 駿大タイピングスキルの頂点は誰？ ～ Typing Challenge Week ～

6月10日(月)～22日(土)に、メディアセンターにて「第6回タイピングコンテスト」が開催されました。本コンテストは、情報処理教育センターがタイピングスキルの向上を目的として開催しているイベントです。2019年度春学期は「Typing Challenge Week」と題して期間中に何度でもコンテストにチャレンジできるルールとし、期間中に延べ182名のチャレンジャーが日頃の練習の成果を披露しました。

6月27日(木)に行われた授賞式では、情報処理教育センター教員から入賞者に賞品としてQUOカードが贈られました。コンテストの各部門の入賞者は右表のとおりです。



#### 〈各部門の上位5位入賞者〉

##### (1) MIKATYPE (ホームポジション+上一段+下一段)

※得点=タイム+ミスタッチ

1位	27点	宮下万里子	(法学部3年)
2位	29点	今井 有咲	(メディア情報学部1年)
3位	31点	GURUNG KIRAN	(メディア情報学部4年)
4位	41点	野原 優太	(現代文化学部4年)
4位	41点	平良はるな	(心理学部4年)

##### (2) 寿司打 (お手軽3,000円コース)

※得点=獲得した金額

1位	3,840点	久保田優希	(メディア情報学部3年)
2位	3,360点	宮下万里子	(法学部3年)
3位	2,640点	今井 有咲	(メディア情報学部1年)
3位	2,640点	小鮒 拓斗	(メディア情報学部2年)
5位	1,980点	小林 美紅	(経済経営学部1年)

##### (3) e-typing

※得点=スコア

1位	446点	久保田優希	(メディア情報学部3年)
2位	364点	小鮒 拓斗	(メディア情報学部2年)
3位	337点	宮下万里子	(法学部3年)
4位	335点	今井 有咲	(メディア情報学部1年)
5位	267点	GURUNG KIRAN	(メディア情報学部4年)



## フィンランド・ヨウツェノ学院との交流が始まります！

本学では、フィンランド南東部ラッペーンランタ市にあるヨウツェノ学院 (Joutsenon Opisto) と、相互に学生を送り合い、それぞれのキャンパスでお互いの文化や言語を学ぶ機会を作るべく、研修プログラムの準備を進めています。

その試験的な取り組みとして、2019年2月10日(日)～2月16日(土)に、本学から3名の学生がフィンランドを訪れ、ヨウツェノ学院での研修プログラムに参加しました。一方、ヨウツェノ学院からは2019年5月25日(土)～6月24日(月)に、1名の研修留学生が来学し、本学の授業やイベント、飯能市内でのイベントを体験しました。

2月にヨウツェノ学院研修プログラムに参加した中島勘太さん(当時、経済経営学部1年)、5月から本学を訪れ各種授業やイベントに参加した Justus Kosonen (ユストゥス・コソネン) さんに、感想を寄せてもらいましたので、紹介します。



## ヨウツェノ語学研修体験記

2018年度ヨウツェノ学院フィンランド研修参加学生 | なかじま かんた  
経済経営学部2年 屋久島おおぞら高校出身 | 中島 勘太

私はヨーロッパの文化や生活にとっても強い興味と憧れを持っていた。そんな私に突然、ある授業後に先生から「春休みに一週間のフィンランド語学研修があるよ」と勧めてもらった。フィンランドというと、「北欧であり、幸福度が高い」ということしか頭に浮かばなかったが、この機会にフィンランドに行かなければ一生フィンランドを知る機会はないと思い、この研修へ参加することにした。結論からいうと、この一週間の研修は私の今までの人生で最も有意義な一週間になったと言えるかもしれない。

この研修で学んだことを2つ紹介する。一つ目は本当に伝わる言葉についてだ。ヨウツェノ学院で日本語を勉強している学生に普段私が友達と話しているような感覚で言葉を使っても内容を理解してもらえなかった。だから私は彼らと話すときは英語の教科書の問題文のようなわかりやすい日本語を使うことを必要とされた。普段自分が無意識に使っている日本語の難しい単語や崩れた文法は日本人には伝わるかもしれないが、日本人以外には伝わりづらいということがよく分かった。本当のコミュニケーション能力が高い人間は、相手が理解しやすい言葉の配慮もできる人間であると学んだ。帰国後もヨウツェノ学院でできた友達とチャットでやりとりをしているが、お互いの言葉の配慮は今も続いていて、とても勉強になり自分の普段使っている日本語を見直すきっかけにもなった。

二つ目は自分の気持ちを流暢でなくても伝えることが大切であるということだ。今回、日本語が母国語ではない相手に、英語でかつリアルタイムで感謝の気持ちを伝えたいと思った。崩れた文法と持ち合わせている少ない語彙で、何回も言い直して、みっともないスピーチといえばそうであった。しかし相手の顔を見ながら、伝わるまで使う単語を変えて話したため、相手がうなずいてくれたり、笑ってくれたりした時の嬉しさはとても大きかった。この感覚は実際に海外に行って自分で望まない限り知ることのできない感覚かもしれない。普通に生きていれば知ることのなかった私の人生にとって非常に貴重な経験になった。



## 日本すごく楽しい

2019年度ヨウツェノ学院研修留学生 | ユストゥス コソネン  
JUSTUS KOSONEN

私は飯能市で1ヶ月くらい5つの異なるホストファミリーの家に泊まりました。様々な日本人の生活を見ました。日本と日本人は素晴らしいと思いました。日本人は本当に優しく親切な人たちでした。この一ヶ月の間、人といっばい会って色々な所に行ってたくさん楽しみました。日本でいつも驚いたことは人の数の多さと町の清潔さです。本当にどこでもきれいだと思いました。日本のコンビニと電車はすごく便利でした。コンビニでは温かい食べ物やお酒、お菓子、雑誌もありました。また、電車を使うことは簡単なのでよく使いました。

私は将来、通訳と翻訳家になりたいです。そのために日本語を勉強します。そして、日本に住んでみたいです。この旅の時、日本人の生活を見ることができて良かったです。たくさん色々な違う家族の生活を見られました。嬉しいです。皆さんは私のためにとても頑張ってくれました。色々な所に連れて行ってきて日本語を教えてくださいました。

東京にも行って、そこで友達と一緒に遊んでとても面白かったです。東京はすごく大きいですね。私の国の人口は少ないです。550万人ほどなのでいつも東京で人の多さにびっくりしてしまいました。少し田舎にも行きました。景色がきれいだと思いました。山と森が好きでした。素晴らしい経験でした。駿河台大学と飯能市の皆さん、また会いましょう！



## 本学のフィンランドに関連する取り組み

2018年11月、本学の位置する飯能市内に、北欧の暮らしを体感したり、ムーミンの世界観を追体験したりすることのできる「メツァ」がオープンしました。本学では、その構想が立ち上がった頃より、フィンランドに関する教育、研究の推進を図り、その成果を地域に活用する各種取り組みが始まりました。

その一環として、2018年度より「北欧文化論」を開講。教養科目として学部・学年を問わず全学生に開放され、北欧地域の社会や文化をとおして、日本という国の特質や課題を理解することを目指し、フィンランドの歴史や教育・社会福祉制度、言語や音楽、デザインなどが学ばれています。また、フィンランド語や北欧文化を学べる各種公開講座も開講され、本学をとおして地域住民にも、学びの輪が広がっています。





## 【練習潜入レポート ラグビー部編】

元号が令和に変わった最初の7月は、それまでほとんど晴れ間の視かない、まさに梅雨と言えそうな、夏としては少し仄暗い曇り気候の季節となっていました。

7月18日木曜日。久々に顔を覗かせた青空の下、夏を越えた先にある秋のリーグ戦に向けて己を鍛える駿大ラグビー部の姿は、まるでそれまでの鬱屈とした空模様を吹き飛ばすかのようでした。

今回は、当日のラグビー部の練習に潜入し、その模様をお伝えします。

現在はシーズンオフのため、秋から始まるシーズンに向けて基礎的な体力づくりや、技術の練習を主に行なっているとのことでした。

最初の練習はシャトルラン。終盤にかけて部員たちの表情にだんだんと辛さが表れていく中、声を出してみんなで乗り切っていこうという前向きな雰囲気作りが見られました。松尾勝博監督も選手たちの中に入って激励しています。



### 【7/18(木)練習メニュー】

- ① シャトルラン
- ② パス練習
- ③ 5mダッシュ
- ④ アタックのスキル練習
- ⑤ 5mダッシュ
- ⑥ タッチフット



その後、一度松尾監督のもとへ集合。当日の練習の流れについての説明を真剣な表情で聞いていました。

集合の次に行われたのは、3グループに分かれて別々のパス技術を鍛える練習。一人が高く投げ上げたボールをキャッチする練習、強めにキックしたボールをキャッチする練習、そして一人がパス出したボールを走りながらキャッチする練習が行われ、パスを出す側が主となって声出し、アドバイスをしながら進んでいきました。



その後、往復5mの距離を、体を伏せた状態から起き上がって5秒以内に走り抜ける「5mダッシュ」が行われました。距離だけを見るとそこまできついようには思えませんが、実際の体力の消耗はかなりのもの。4年生を中心として声を出し、お互いを鼓舞していました。

5mダッシュを乗り越えた先で行われたのは、再び3グループに分かれてのアタックのスキル練習。



松尾監督も実演を交えて指導

その後再び5mダッシュを挟み、ラストは「タッチフット」と呼ばれる、タックル無しで行われるゲーム形式の練習です。

日も暮れて空も暗くなってきましたが、ゲーム形式の練習ともあり部員たちのボルテージも上がります。晴れ空の下、気温も高く疲労もいつも以上となりそうな中、それまで以上に部員みんなで声を出し、練習を盛り上げていました。



鈴木徳一コーチ

グループ内でも周囲を見ながら動いていた主将の和田響輝選手(法学部4年・埼玉県立狭山工業高校出身)に、主将として気を付けていることを伺うと「部員をまとめるのはもちろん、まずは自分が1番良い動きをすることを心掛けています」との返答が。



主将の和田選手

来たるべき秋季リーグに向けては、「今年こそは2部リーグへ上がり、来年新たなステージでチャレンジできるようにチーム一丸となって、一戦一戦全力を尽くし戦います」と語ってくれました。

2部昇格へ向けて努力を続ける駿大ラグビー部へ、応援をお願いいたします！



## ヨーロッパの地で挑戦し続ける

プロサッカー選手 <sup>てらうちだいと</sup> 寺内大登さん 2018年度経済経営学部卒業

### 現在の仕事

在学中からドイツに渡り、ドイツ5部リーグのチームに所属し、今季からルクセンブルクの1部リーグ Victoria Rosport というチームでプレーをすることになりました。練習は基本的に夜からの開始となるので練習までは基本的にやることはフリーです。勉強しようが練習しようがのんびりしようが、己の身に任すという感じです。私はまだ今のチームに慣れていないので、選手とコーチ陣とのコミュニケーションが非常に大事な時期であると感じています。その中でなるべく話しかけ、自分だけでなく相手のことを探りながら話しています。

サッカー自体もまだ完全にスタメンが決まっているわけではなく、監督がメンバーを調整しながら公式戦に向けてチェックしている状況なので具体的にはわかりませんが、スタメンになれるように奮闘しています。

### 海外生活の魅力や困難なこと

日本にも魅力的なことはたくさんありますが、海外で魅力的な点は日本人にはあまりない自己主張です。自分がどういう人間で自分の言いたいことをなるべく言うこと。それはサッカーをやっている人だけにかかわらず、街中やスーパーなどたくさんの場所で日常的にその様な光景がよく見られます。私自身も日本では今まで自己主張はあまりしてこなかったため、こんな自分を変えたいとも思っていました。まだ完璧には変わっていませんが、日本を離れてからの私は自分でも気づくほどに変わったと思います。



チームのサポーターやスポンサーとのパーティにおいて

また、困難といえば誰もが壁に当たるであろう言葉の壁です。私自身も会話ができない時期、理解できないときはよくあり、今でもあります。冷たい人だと呆れられ話すのをやめる人もいますし、諦めずゆっくり話してくれる人もいます。そういう経験をしてきた今、少しずつ会話が成り立つようになってきて言葉の面でも成長を実感しています。言葉だけでなく、異文化という環境に慣れることも大事です。

### 駿河台大学在学中のこと

私は在学中の3年生まで経済経営学部で学びながらサッカー部に所属していました。2年生までスポーツ寮におり、3年生からは一人暮らし

輝く先輩 No.22



をしていました。4年生に上がるときに一度休学をしました。なぜならそのときにドイツへ行くことを決めたためです。そして1年の休学が終わり、残る単位もゼミだけとなりました。1年生の時から勉学面でも、さらには、サッカー部部長として面倒を見てもらっていた南林先生のゼミに所属していたため、もう一度ドイツへ行くことを話した結果、先生は理解をしてくださり、ご指導のもと無事に卒業論文を提出し、卒業に至ることができました。



前列一番右が寺内さん

### これからのこと、後輩へのメッセージ

この先自分自身もどうなるかわかりません。しかし、目指す場所、自分がこうなりたいという目標はあります。それまで私は挑戦し続けます。後輩のみなさんにももっとたくさんのごことに挑戦し、目標や夢を見つけ達成して欲しいと思っています。

「夢がない」「やりたいことがない」と言っているだけでは何も見つかりません。もっと自分から積極的に行動すればやりたいことが見えてくるはずなので恐れず進んでください。

最後に、大学の関係者、家族、友人全ての人たちに感謝しています。みなさんのおかげで今の私があり、ここまでこられていることは間違いないです。まだまだ私は動き続け、これからももっとステップアップしていくことが皆さんへの恩返しにつながると思っているので応援をよろしくお願いします。

### Profile

埼玉県立浦和東高校出身。8歳よりサッカーを始める。  
大学1年次には埼玉県大学サッカー2部リーグ新人王に選ばれる。  
2017年 ドイツ5部リーグ Victoria Arnoldsweiler 所属  
2018年 同リーグ Blau weiß Friesdorf 所属  
2019年 ルクセンブルク1部リーグ Victoria Rosport に所属しMFとして活躍中。

## 名誉教授の称号記授与式が行われました

6月18日(火)、飯能キャンパスにて、名誉教授称号記授与式が執り行われました。出席された4名の名誉教授に入江孝信理事長より称号記を授与し、大森一宏学長からこれまでの教育及び学術上の功績に敬意を表すとともに本学での功労に感謝の言葉が述べられました。

閉式後は記念撮影が行われ、その後の会食では和やかな歓談の場となりました。今年度、名誉教授の称号を授与された方々は次の4名です。

よしだ つねお 名譽教授 (法学部)  
おりた ひろこ 名譽教授 (法学部)  
なんばやし さえ子 名譽教授 (経済経営学部)  
せと じゅんいち 名譽教授 (メディア情報学部)



上段左から、石井大学事務局長、大森学長、入江理事長  
下段左から、瀬戸名誉教授、吉田名誉教授、織田名誉教授、南林名誉教授